

平成 2 9 年第 7 回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成 2 9 年 1 2 月 1 2 日 (開会)

平成 2 9 年 1 2 月 1 4 日 (閉会)

○議長（小林信） 次に、2番 伊藤敏夫君の発言を許します。2番、伊藤敏夫君。

（2番 伊藤敏夫議員 一般質問席登壇）

○2番（伊藤敏夫） 私の質問は、村の中の職人の後継者についてと、集住型宿泊交流拠点施設の利用促進に伴う気軽な方法とかというような内容で質問させていただきます。

まず最初に職人後継者についてでございます。

職人後継者には、今私が考えているのは山野草と、それから木工芸、それから純然たる木材加工の、本来の木工についての3つを取り上げておりますが、この他にも別の職人さんも村内にはおられるものとは思いますが、その3つに絞った形で質問させていただきたいと思えます。

村内の職人さんは、永年にわたり技術向上に努め活躍されていることは、村の宣伝にもつながっていると思っております。その技術や知識を後継するためには、その分野において、この分野については、山野草とか木工芸とか、本当の木材の加工の木工でございますが、この3つの職人の皆さんと今まで話されてきた内容には、誰もが興味がある人でなければ駄目ですと。将来、職人として頑張っていきたいと、その想いが強い方でなければならないという職人さんの声でありました。

このように、村内の中で後継者がいるのであればもっと早くできたと思うのだけれども、自分は今、殆ど1人でやっているというのが実態でございます。本来の木材加工の本当の木工については、もっと早く、それを貴方が今考えているものを話してくれるのであれば、機械なんかについては手放さなかった、小道具等とか、それから技術についてはあると。ですから、そういう方々がおるのであれば、今現在ある機械の中で応援をしてもいいよというような声が大半でございました。

村内の中において、なかなか職人というのは後継者がいないとなれば、私が考えるには、せつかく今ネット社会でもございますし、国の制度である地域おこし協力隊の募集を村が行っていただいて、その興味のある人や職人として、このあとを頑張っていきたいというような方々が全国の中にも多々いるのではないかとちょっと感じとりましたので、そういう後継者として手助けする村としてできるものなのか、できないものなのか。地域おこし協力隊として、職種についての特化した協力隊を募集することが、村としてできるのか、できないか。そこらへんをまず最初に村長の考えをお願いしたいと思います。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 地域おこし協力隊の募集の内容ということでよろしいか

と思うのですけれども、現時点では8日から今月末までの分として要望を受けている状況であります。ですから、その中で最初の応募の仕方の部分について多分言われているのかなと思いますけれども、いわゆる特産品開発事業等について、その中身的に、いろんなその中身があるわけですけれども、そういうことができますよと、そういう応募をしていただきたいというふうな形の応募は、今しております。それを多分、議員さんが言われているのは、山野草若しくは木工品、木工というような、そういう特定なものを明記して応募ができるかというふうなことだと思いますけれども、それについては、今ちょっと、今までそういうことをやったことがないものですから、これから検討させていただきたいというふうに思います。

いずれ今、現段階で応募しているのは特産品開発とか村にとって集落の応援をしていただく人とか、ということである程度間口を広くしてあるのです。いわゆるその特定のものを作るのではなくて、いろんなやりたいことがあるというふうな人を、とりあえず応募していただいて、その中からどれどれに、どういふことをやるのだということ、絞込みをしてきているということが実情でありますので、最初からその特定のものに絞るといふのはちょっと今考えていなかったものですから、それについては少し県の方にもお考えをたてながら、これから検討させていただきたいと思います。

○議長（小林信） 伊藤敏夫君。

○2番（伊藤敏夫） この後、2名の方から一般質問に対して個人名の名前、出して言いかという話しをしたら、「まあ、いいよ」というようなことでございましたので、ちょっと個人名を出していきますが、なぜ私がこのような質問をしなければならないかというのは、冒頭にもお話をしたように、なかなか村内の中においての職人になる人、募集というのは個人的にはやれなかったと思いますし、やはり、そういう意味から今村長が答弁したように、県の方との状況も聞かないと何とも言えないということでございますが、このインターネットでは「山野草名人、山形正雄さん。上小阿仁村」と出ておまして、いろんな内容が明記されて見ることができます。

山形さんのお話としましては、「山野草のラン科のコアニチドリは、村の花でもあり増殖はしたい。けれども、なかなか手間がかかって俺1人では手が回らない」というようなことも話されておりました。

また、「野外センターの林の中には山野草の増殖し易い良い場所がある。ただ、それを増殖しようとする場所を整備するというと、これも1人ではできない。その場所には、コアニチドリのみでなくて、エビネやシラネアオイを多く増殖した方が、コアニチドリよりも手間がかからなくて」、その今話したエビネやシラネアオイについては、道の駅でないのか、ないのかというような声が多々あ

るそうであります。

そういう意味からいきますと、道の駅としても売り上げに貢献できるのではないかというので、そういうような場所、今後については考えて、「その地域おこし協力隊などが来た場合においては、そういうようなものができるな」と、こういうお話をされておりました。

それとまた同じく「工芸作家の畠山耕一さん。上小阿仁村」と出ておられて、これもネットでございます。畠山さんは、現在、76歳ですが、「上小阿仁村にはこんなにいい材料がたくさんあるのに、木工芸の特産品がないことが不思議でねえ」というふうにコメントを出しておられます。

「自分の作品を喜んでくれる人がいる限り、急がすゆっくり作っていきたいなあ」と、ネットに紹介されておられます。

先般、畠山さんとお会いしたのですが、このネットには、貴方が出したのかと話ききましたら、いやいや、県の女性の職員が、私を訪ねて来まして、その方がネットに紹介してくれた。そのネットのおかげで熊本県の方が私を訪ねてきたと。貴方のその技術を私に教えてくれないかというような話を聞いて、ただ、いま俺一人では、貴方について教えるようなことはできないというので、もし、機会があればまた別の日にしてもらいたいというので、自分で造った工芸品をあげて、まず断ったと、こういうようなお話も聞いておられます。

地域おこし協力隊の応募の条件もあろうかと思いますが、こういう方々の力を何とかして残していかなければならないのではないかというふうに、強く感じておる一人でございますし、先ほど、山形さんと畠山さんの話はしたのですが、本当の木工については、今後の上小阿仁村がどのような森林を活用していくのかによっても変わってくるのではないかというような話もされましたのですが、「その機械ももう手放した関係もあるし、ただ、そういうふうに地域おこし協力隊が、この仕事を本当にやりたいというのであれば、それについても応援したい。ただ、我々も高齢になっているため、現代の木工技術ではないため難しいのではないかな」という話もされておりました。ということで、聞いて、それ以外の方法というのではないものかなと思って、私はいろいろこれからについては少し本当の木工は別にしても、その山野草と木工工芸品については、いろんな声を聞きながら応援していきたいなと思ってはおります。

今年であります、私ども議員の皆さんが奈良県の方へ視察研修に参ったわけではありますが、その中においては外人さんもおりましたし、それからその地域の技術的なものに「あでがっている」という言葉、悪いのですけれども、そういうものを一生懸命やっているんです。ですから、それがあったものですから、これは地域おこし協力隊を募集すれば、全国にはいろいろ人がいるだろうし、何とかこれについては形にしていきたいなということで一般質問に向けて

お話したわけなのですけれども、ただ、村長の考えは、相談してみないと分からないということなのですけれども、何かそれ以外に考えるものというのはいないものでしょうか。

それ以外の考えがありませんか。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 最初に伊藤議員から言われたように、まず、1番スタートの段階で考えていたのは、いわゆる興味を持ってきている人、そのことを好きな人でないとまずスタートにならないということで、野外センターに研修に来られていた研修生について、いくらかでもいろんな形で触れていただきたいと、もしかしたら、それを体験することによって好きになるのかもしれないというふうな期待を込めまして、研修生の受け入れについて、少しお伺いをした時があります。

例えば、山野草のことについてお話しますと、鉢上げをすとか、鉢の移動をすとか、株分けをすとか、いろんな形で忙しい時があると思っています。ですから、そういう時に、研修生に1週間なら1週間、2週間なら2週間、弁当を持ってお手伝いに行きます。その時、いろんなことを教えていただけないでしょうかと、それによって、その研修生が、もしかしてその山野草に興味を持って、それをもとに今度自分でもやってみようというふうなことに繋がらないかということで、少しお話をさせていただいた経緯があったのですが、なかなか引き受けていただけなかったということがありました。

ですから、第1番のスタートとして、興味のある人、好きな人がいないといけません。その次、今度、技術を持った人が、そういう人方に教えていただけるかどうか、あの部分の第2段階でまずひかかった。第2段階の今やられている人方が時間をとっていただいて、もし技術承継をしていただくことができるとすれば、それは、先ほどお話したとおり地域おこし協力隊というような募集の形での対応も可能になってくるのかなと。何も教える人がいないのに募集をかけて、来たわいいけれども、どうやるのだというふうなことになるというのがちょっと心配をしているところでありますので、そこら付近の、いわゆる対応が可能かどうかを少し調べさせていただきたいと思っております。

それによって、もし可能だとすれば地域おこし協力隊若しくは野外センターの研修生とか、いろんな形でせつかくの技術でありますので、その技術を、村の技術として、村の特産品として将来引き継いでいただくような若い人ができれば、これに越したことはないというふうな思っておりますので、まずそこら付近の確認をさせていただいて、対応が可能なのか、次の段階に入らせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思いま

す。

○議長（小林信） 伊藤敏夫君。

○2番（伊藤敏夫） 私も、この2名の方については、応募してくれるのかどうかについてはまだ定かでないけれども、来た段階においては、そういうふうに指導したり或いは手伝ったり、地域おこし協力隊については3年間の任期というのがひとつあると。だから、その3年間について指導していただけるものなのかと言ったら、「それは大変ありがたいことだと」。

この2名の方については、もし協力隊が来て、この仕事をしたいというのであれば、いくらでもそれについては応援していきたいし、教えていきたいし後継してもらいたい、こういう考えでありました。ということで、ぜひ、奈良県に行ってもそういうことをやっておったところが、あとで詳しい資料は出してもいいのですが、そういう意味で、確か私9月の議員の研修旅行等については出して、そういう一人ひとりについての内容は、こういうようなものであったというのを書いてレポートを出しておりますし、議会の広報にも載っておりますから、それについても見ておいていただければ非常にありがたいなと思っております。確かできるのでないのかなと。できる方法をひとつ考えていただきたいというふうに思うのでございます。

ぜひ、了解もとっておりますから、応援するというふうにとっておりますから、ぜひ、そういう方向に持っていけるように努力していただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

1つ目はこの件で終わります。

○議長（小林信） 2番、伊藤敏夫君。

○2番（伊藤敏夫） 2つ目については、集住型宿泊研修施設の利用促進のPRはどのようにするかというので、ここには掲げたわけでありましてけれども、午前中に大城戸議員が、同じような質問をされておりますし、この議会の期間中に全協、委員会も今朝の段階で設定して決まっておりますが、14日の10時からとなっておりますので、その時の内容がいろいろと当局の方から説明があるというふうに聞きましたので、それについては同じようなことを話しても、村長の答弁は同じぐらいと思いますが、ただ、この件について、やはりもっと早くやるべきではないのかと。大城戸さんも言うておりましたが、3月までに終わって、4月から何人か利用したいというようになって、来るかもしれませんが、やはり事務的なものがあまりにも遅れているのではないかなというふうに感じをしております。

そういうので、1つ目について私は、村民の周知はいつ頃するのかというふうに掲げました。それから、利用条件というものについては、いろいろあると思っておりますから、そういうようなものを早めに作って、実施に向けたPRをしてい

かなければならないのではないかと。

それから、最初は短期間の中において入っていても移住もしたいという人も出てくるかもしれません。そういう意味では、そのような項目もPRに掲げてやってもいいのではないのかなと。

この4つ目には村のホームページについてであります。当然、ネットでもそういう募集についてはやることとは思いますが、今、私の家にはネットを見れるようにはしておるのですけれども、「上小阿仁村」というふうに打ちますと、10項目ほどの項目が出てきまして、「上小阿仁村悪の村」「上小阿仁村役場」「上小阿仁村行って見た」「上小阿仁村こわい」「上小阿仁村道の駅」「上小阿仁村医者」「上小阿仁の天気」「上小阿仁村高橋旅館」「上小阿仁村村長」「上小阿仁村入札」という10項目がバツと出てくる。それをクリックすると、その中に項目がまたあって、それをクリックすると内容がバツと出てくる。

こういう状況、前にも私そのことを話した経緯があるわけなのですが、ネットとかでPRに上小阿仁をしようとしても、こういうような状況のものが出てくると、やっぱりイメージというのは悪いものではないのかなというふうに思います。

これを取り消すということは本当にできないのかと。中田村長の時でありますけれども、医者の問題は今でもその4年ぐらい前の内容と同じなんです。それを今の技術で或いはそれが4年前と同じようなものが出てくること事体が、非常に村のイメージダウンになっているのではないのかなと思っておりますが、それというのは、今、新しいものを上小阿仁村がいろいろやろうとしている時に、上小阿仁村ということ、ただ上小阿仁村を打つだけで10項目が出てくる。医者の問題、こわい村、医者いじめの村、こんなことばかり出てきて、本当にこれで皆さんよくネット見ている思うのですか、どう感じておるのか、何とかこれを取り消すことを、役場内でもいろんな技術者がきて新しいシステムをやっていると思うのですが、これらのものを削除することができないのかどうか、そこらへん、村長、分からなければ別の人でいいですので、説明できる人説明してもらえませんか。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） まず最初に集住型の方から、1番の村民の周知については、一応、今回の議会でご相談させていただいて、ある程度固まった段階で先ほど説明したとおり3月の定例会に上程をさせていただきたいということがありますので、いわゆる3月以降で対応を考えているという事であります。

ただ、3月議会が多分少し遅れては、公募がもし遅れるようであれば、議会の了解を得ながら公表できる部分については、前もって公表させていただきた

いというふうには考えております。

それから移住定住の関係につきましては、施設の目的、内容説明の段階でいわゆる短期入居スペースというのを設けてあります。このスペースにつきましては、当初の計画の予定のとおり冬の間の老人の方々の一時避難的な施設として活用し、夏の部分については若い人方、若しくは研修、合宿等の方々に活用していただくというふうなことも含めて、併せて移住定住の方々のお試し住宅という形での活用も考えておりましたので、そういうものでまず対応をさせていただきたいということ。それから、移住定住ですので、当然、上小阿仁村に來られて、例えば事業をするというふうなことになればレンタルルームが必要になります。

それから、当然、働く場所が見つかったとすれば住むところが必要になります。そうするとアパートが必要だと、いうふうなことで、この集住型の建物については、多目的活用ができるようにということでの、いわゆる移住定住につながるものということでの考え方をさせていただいているということでご理解をいただきたいと思います。

4 番の村のホームページの活用についてということで、集住型の施設等については、できるだけ早めに議会の了解を得ながら、いわゆる公表させていただきたい。それについては使用料、それから予約等も含めて対応させていただきたいということで、当然、そのホームページも活用させていただきますし、広報等、いろんな形で公表をさせていただいてPRをしていきたいというふうなことで、最終的には有効活用ができるような、そして村の人口減少が緩和されるような施設になるように頑張らせていただきたいと考えております。

最後の上小阿仁村のネットの関係であります。これについては、いわゆるクリック回数の多いものが上位にくるというふうなことであります。ですから、タイトルが上小阿仁村のなんどか、かんどかというふうなことがあれば、興味を引くのを必ず誰かがクリックするわけです。そうするとカウントが上がると、ですから何としても下に下がらないというのがひとつあります。ですから、上小阿仁村のイメージを良くしたものとしていろんなものをたくさんネット上に上げさせていただいて、良いものは上小阿仁というふうなクリックの上位にくるように、先ず目標に今やらせていただいているというふうなこと。

それから、これを消せないかということだと思えます。お金を掛ければ消せるそうであります。ただ、これはお金もかかるのですけれども、それよりも怖いのは消したということで再びまた炎上するというふうなことのようであります。これ、何で炎上するのかとチョッと聞いたら、どうも広告がくっついてくるみたいで、それがクリックされればされるほど、上位にいけばいくほど、その作った人にお金が入るといふことのようにあります。ですから、例えば、上

小阿仁村の今までのものを全部消しましたと、そうするとまたなぜ消したのかというふうなことで、再びまた変な方向に行くのではないかというふうに指導を受けました。

ですから、なかなか難しくてやればやれますけれども、また再び同じような形で別の問題が生じてくる恐れがあるということで、できるだけ今の段階では、上小阿仁村のいいイメージのものを上げて、それが上位にくるように、悪いイメージのものが下の方にいけば、それが最終的には誰も見なくなるということになりますので、そういう対応を今やらせていただいているということであります。

○議長（小林信） 伊藤敏夫君。

○2 番（伊藤敏夫） 確かに、そうかも知れない、そこまでの知識は私もなかったわけではありますが、いろんなものを村としてはやろうとしておるが、片方では非常に村のイメージをダウンさせるような、そういうネットの中が本当に残念だなと。4年も前のをそのまま載せているというのは、本当に良くないなと思っております。

この件について、いろいろと聞いたかったわけですが、大半、大城戸議員も話されておりますし、全協の中においての説明を聞いてからでないと、また、何も言えないところもあるわけでありますから、それについては全協での報告の内容を精査しながら、また、それなりの意見を述べたいと思っておりますので、今日のところについては、私の質問をこれで終わります、この後の定例議会の内容を踏まえ合わせながら努力してまいりたいというふうには思っておりますので、以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（小林信） これで一般質問を終わります。